

自己紹介

文学部史学地理学科アジア史専攻、大学2年の日高舞桜です。

今回は、私が体験した「言語交換プログラム」についてご紹介します。

プログラムに参加したきっかけから、実際に体験して感じたこと、そして学んだことまでをまとめました。

プログラム参加のきっかけ

私がこのプログラムに参加しようと思った一番のきっかけは、もともと大好きだった中国語圏の歴史や文化でした。私は大学で中国史を専攻しており、歴史文献や資料を読み解く中で中国語という言葉そのものにも強い興味を持つようになり、日々学習を続けてきました。しかし、大学の講義や独学ではどうしても文法や単語の暗記といった「インプット」が中心になりがちで、実際に学んだ言葉を使って誰かと対話する「アウトプット」の機会はほとんどありませんでした。3年次には現地への留学を視野に入れていたため、実際に自分が学んだ語学力を試してみたいと感じていました。そのため留学前に少しでも実践的なコミュニケーション能力を高め、自分の実力を試すきっかけを作りたいと考え、本プログラムへの参加を決意しました。

初めてパートナーにあった時の印象

私のグループは「留学生2人に対して日本人は私1人」という構成でした。

そのため、最初は「自分の今の語学力で2人の会話についていけるだろうか」と不安で胸がいっぱいでした。しかし、いざ対面してみると、2人とも笑顔が本当に素敵で、その温かい雰囲気に触れたことで張り詰めていた緊張が一気にほぐれました。また日本語も上手だったのでコミュニケーションをとるのに苦労しませんでした。言葉の壁を越えて優しく接してくれる2人のおかげで、「このメンバーともっとたくさん話せるようになりたい!」と、学習へのモチベーションがさらに高まりました。

最も印象に残っている思い出

プログラムの中で一番印象に残っているのは、3人で浅草を散策したことです。実は私自身もそれまで浅草を訪れる機会があまりなかったのですが、伝統的な街並みを2人と歩く中で「日本の歴史や文化の良さ」を自分自身も再発見する素晴らしい機会となりました。ただ言語を学ぶだけでなく、文化を通してお互いの理解を深め合えた、かけがえのない思い出です。

交流を通して感じたこと

今回の交流を通じて同じアジア圏でも学校制度や生活習慣などに様々な違いがあることを知りとても興味深く感じた一方、勉強や将来について考えることやファッションなど同年

代の学生として共感しあえる部分も多く、お互いに共感しあえる場面がたくさんありました。実際に話すことで知らなかった価値観や文化を知ることができただけでなく自分が持っていた先入観も自然と消えていきました。私にとってこのプログラムはさらに中国や台湾への興味と留学への意欲を増してくれるものになりました。また彼女たちとおしゃべりすることが非常に楽しかったです。

語学力への影響

このプログラムで毎週ネイティブスピーカーと会話を重ねるうちに、語学力が日に日に向上していくのを実感しました。特に伸びを感じたのはリスニング力です。最初はネイティブならではのスピード感到に圧倒されましたが、毎週聞き続けることで少しずつ耳が慣れていきました。そのおかげで、中国語検定「HSK4級」の試験でも早いスピードの音声に難なく適応でき、無事に合格することができました。

また、聞き取りだけでなく発音も大きく改善しました。自分が苦手意識を持っていた部分も細かく丁寧に指導してもらえたため、着実に克服することができました。何より「彼女たちとスムーズに会話がしたい」という一心で臨んでいたことが、言語学習に対する大きなモチベーション向上につながったと感じています。

言語交換プログラムに参加する方々へ

言語交換プログラムに参加したことで、ただ単に言葉の上達を感じられただけでなく、言語という架け橋を通じてかけがえのない友人たちと出会えたことが何よりも心から嬉しかったです。もしこのプログラムに参加していなければ、彼女たちと巡り会うことはきっとなかったのだと思うと、この一歩を踏み出して本当に良かったと感じています。

彼女たちとの出会いは私に大きな刺激を与えてくれました。以前にも増して「もっと現地へ行って学びたい、留学したい」という思いが強くなり、将来の目標がより一層明確になりました。「また会おう」という彼女たちとの約束を果たすためにも、再会の日までにもっと語学力を高め、留学という夢を必ず実現させたいと思います。

長くなりましたがこの言語交換プログラムは新しい言語の習得はもちろん、かけがえのない出会いや挑戦のきっかけをくれる素敵なプログラムです。皆さんもぜひ参加してみてください！

